ご家族で（昭和30年吉田町）

坂村真民記念館（砥部町）

飯台・当時のもの（昭和25年）

手作りのセーターと真美子さんの人形

## つよっさんのお楽しみ日記㉗

### 坂村真民と「家族の絆」の巻

　砥部町の坂村真民記念館で「家族の絆展」が開催されています。私が町長時代に町民の皆さんと「夢を共有」しながら建設した記念館ですので今も毎月のように訪ねています。

　ところで、真民詩と言えば「念ずれば花ひらく」「本気」「すべては光る」など人間詩が有名ですが、一番多いのは家族のことを詠んだ詩です。真民が詩人として生き続けるため、家族の理解と生活は大変でした。

　私達も戦後間もなくの物の無い時代どの家庭でも食事は子供達に先に食べさせて、両親は残ったものを食べるような時代でした。そんな中貧しさを貧しさと感ずることなく素直で明るく、優しい娘に育っていく三人のお嬢さん達。そうして最大の理解者であった奥さんへは「自分が今あることも、子供たちが素直で育ってくれたのもおまえおかげだ」と感謝の気持ちを詠っています。真民が四十歳の時に書いた心暖まる詩があります。

### 飯台

「何もかも生活のやり直しだ　引き揚げて五年目　やっと飯台を買った
あしたの御飯はおいしいねと　よろこんでねむった子供たちよ（中略）
温かいおつゆが匂っている　おいしくつかった沢あん漬けがある
子供たちはもう箸をならべている　ああ　飯台一つ買ったことが
こうも嬉しいのか　貧しいながらも　貧しいなりに育ってゆく子の
涙ぐましいまで　いじらしいながめである」

皆さん、戦後の生活を思い出しつつ「純な心」で真民さんの世界に入ってみませんか。

坂村真民と家族の絆展
十月十八日まで開催中
坂村真民記念館（砥部町）

日本交通社代表取締役
中村剛志



★　毎週火曜日18時15分から愛媛朝日テレビ「Ｊチャンえひめ」ご覧下さい　★